

特定非営利活動法人 北本市観光協会

事業名	北本市の農家と農産物の魅力発信事業		
枠の種類	(1) 一般枠		(2) ネーミング事業
① 事業の目的	北本市の年間を通した豊富な農作物を育てている農家への取材、農産物の魅力発信や、新規就農者への情報発信を行い、今後の観光農業の事業化と、それに伴う、農業生産額及び農家収入・所得の増加と、農家の世代交代の促進、新規就農者の増加など、遊休農地の活用と農業生産の活性化。		
② 地域の課題と現状	北本市では産業観光の活性化として、農業の活性化に取り組んでおり、近年では農産物ブランド化事業等、様々な事業を行っている。しかしながら、グローバル化の進行や農家の高齢化などの原因で、農家数は 2000 年の 486 戸から 2015 年の 268 戸へ減少、同じく経営耕地面積も減少を続けている。不耕作の遊休農地は増加しており、市では新規就農者募集等を行っているが、農家数の減少は続いている。北本市観光協会では、北本市の野菜や果樹などの新鮮な農産物が、北本市の重要な観光資源だと考えており、収穫体験イベントの開催など今までに農産物の魅力を発信するイベントを開催してきたが、新型コロナウイルスの影響もあり、新規イベントなどは開催が難しく、恒常的な農業の活性化には至っておらず、今後も不耕作地などの増加が予想される。 しかし、北本市の農家を細かく見ていくと、数百年続く昔ながらの農家や、年間 100 種類以上の野菜を減農薬のこだわりの栽培方法で栽培している農家など、歴史があり魅力的な農産物を栽培している農家が多数北本市にはいる。また、北本市の若手農家の団体「農業青年会議所」では、現在 20 名以上の会員がおり、近隣市では珍しく若手農家の連携がとれており、日々の農業経営に切磋琢磨して取り組んでいる。(2019 年時点) 一方で、北本市では、農業にまつわる潜在的な魅力を、PR 面でうまく発信できておらず、必要な情報が地域市民や新規就農希望者へと届いていない状況がある。また、栽培している野菜に関しても、品種が近隣と似たものが多く、北本市のオリジナルブランド野菜に認定されたのは、わずか 2 種類の野菜にとどまっている。 そこで、恒常的で効果的な北本市の農業の魅力発信と、新たなオリジナル農産物のブランド化を通して、今後の観光農業の事業化と、それに伴う、農業生産額及び農家収入・所得の増加と、農家の世代交代の促進、新規就農者の増加など、遊休農地の活用と農業生産の活性化を目的とした事業を行う。		
③ 事業の対象	A：北本市民及び近隣住民 B：北本市 C：新規就農者や就農希望者 D：北本市農業青年会議所		
④ 事業内容	① 広報誌の作成		対象
	② WEB サイトでの紹介記事の掲載		
	③ 魅力発見発信ワークショップの開催		
具 体	農家へのヒアリングの実施		B.D
	新規就農者へのヒアリングの実施		C

	的 な 内 容	農家への取材・インタビューと紹介記事の作成	B.D
		農家の栽培している農産物の写真撮影	B.D
		インタビュー記事を広報誌にまとめ、農産物や直売所・ふるさと納税などの農産物購入情報・就農就農者への情報と一緒に発行	A.B.C.D
		市内の農産物直売所及び市外や埼玉県と連携した広報誌の配布	A.B.C.D
		インタビュー記事をWEBサイトにまとめ掲載	A.B.C.D
		農家と行政と連携した、北本市ブランド野菜の検討や発掘、講師を呼んでの勉強会の開催	B.C.D
		農家と行政と連携した、北本市らしい観光農業の可能性を探る勉強会の開催・可能性の検討	B.C.D
⑤事業の実施により達成したい成果		継続的に北本市の農産物の魅力をPRするネットワークや組織の構築	B.C.D
		広報誌やWEBサイトでのPRを通した、北本の農家や農産物の知名度の向上・愛着などの醸成	A.B.C.D
		北本市の農産物直売所の来訪者の増加	A.B.C.D
		就農希望者とのネットワークの構築	C D
		ブランド野菜検討結果の報告	A.B.C.D
⑥⑤の測定方法		関係者へのヒアリング	B.C.D
		ワークショップ参加へのアンケート	B.C.D
		モニターを募集してのPR効果の測定	A
		ブランド野菜調査結果の報告書の作成	B.C.D
⑦事業がどのように課題解決につながるか		関係者へのヒアリングから、実際の農産物や農家への取材、ブランド野菜を研究するワークショップの検討、観光農業の可能性の検討を通し、課題や地域資源などの現状把握から、資源の発掘発信を行い、一体的かつ効果的なプロモーション活動と次世代型ネットワークの構築を図ることで、課題を解決する。	対象
		関係性の構築と課題解決への継続的なチーム作り・ネットワークの構築	A.B.C.D
		広報誌やWEBサイトによる効果的なPR	A.B.C.D
		関係者を対象とした勉強会やワークショップの開催	A.B.C.D

⑧事業計画	月	事業計画	広報計画
	6	事業内容の検討と確定、参加団体と連携方法や実施方法などの検討、講師との打ち合わせ、新規就農者などのリサーチ、	デザイナー・カメラマン・ライターとの打ち合わせ、WEB サイトの準備
	7	農家へのヒアリング・取材 就農希望者とのネットワークの構築	広報誌の発行、WEB サイトでの記事掲載
	8	農家へのヒアリング・取材 第1回ワークショップの開催	広報誌の発行、WEB サイトでの記事掲載
	9	農家へのヒアリング・取材 第2回ワークショップの開催	広報誌の発行、WEB サイトでの記事掲載
	10	農家へのヒアリング・取材 第3回ワークショップの開催	広報誌の発行、WEB サイトでの記事掲載
	11	農家へのヒアリング・取材	広報誌の発行、WEB サイトでの記事掲載
	12	農家へのヒアリング・取材 第4回ワークショップの開催	広報誌の発行、WEB サイトでの記事掲載
	1	農家へのヒアリング・取材	広報誌の発行、WEB サイトでの記事掲載
	2	農家へのヒアリング・取材 第5回ワークショップの開催	広報誌の発行、WEB サイトでの記事掲載
⑨連携先	北本市産業観光課 048-594-5532 北本市農業青年会議所 会長 新井宏明 090-1501-9900		
⑩役割分担・連携体制	北本市観光協会：事業運営・ワークショップの開催・広報誌 WEB サイトでの記事作成掲載・調査研究・報告 北本市産業観光課：北本市内農業者の紹介、取材や広報協力、ネットワーク構築のサポート、就農希望者情報などの共有 北本市農業青年会議所：ワークショップの共催・共同運営、ワークショップなどへの参加協力		
⑪補助終了後の継続	・来年度の実施に向けて、メンバーとのネットワークを構築し、事業の検証改善を図り、来年度以降も継続した事業として実施する ・広報誌の作成などにかかる経費については、本年度の事業を基として、協賛等の検討を本年度から行う。		